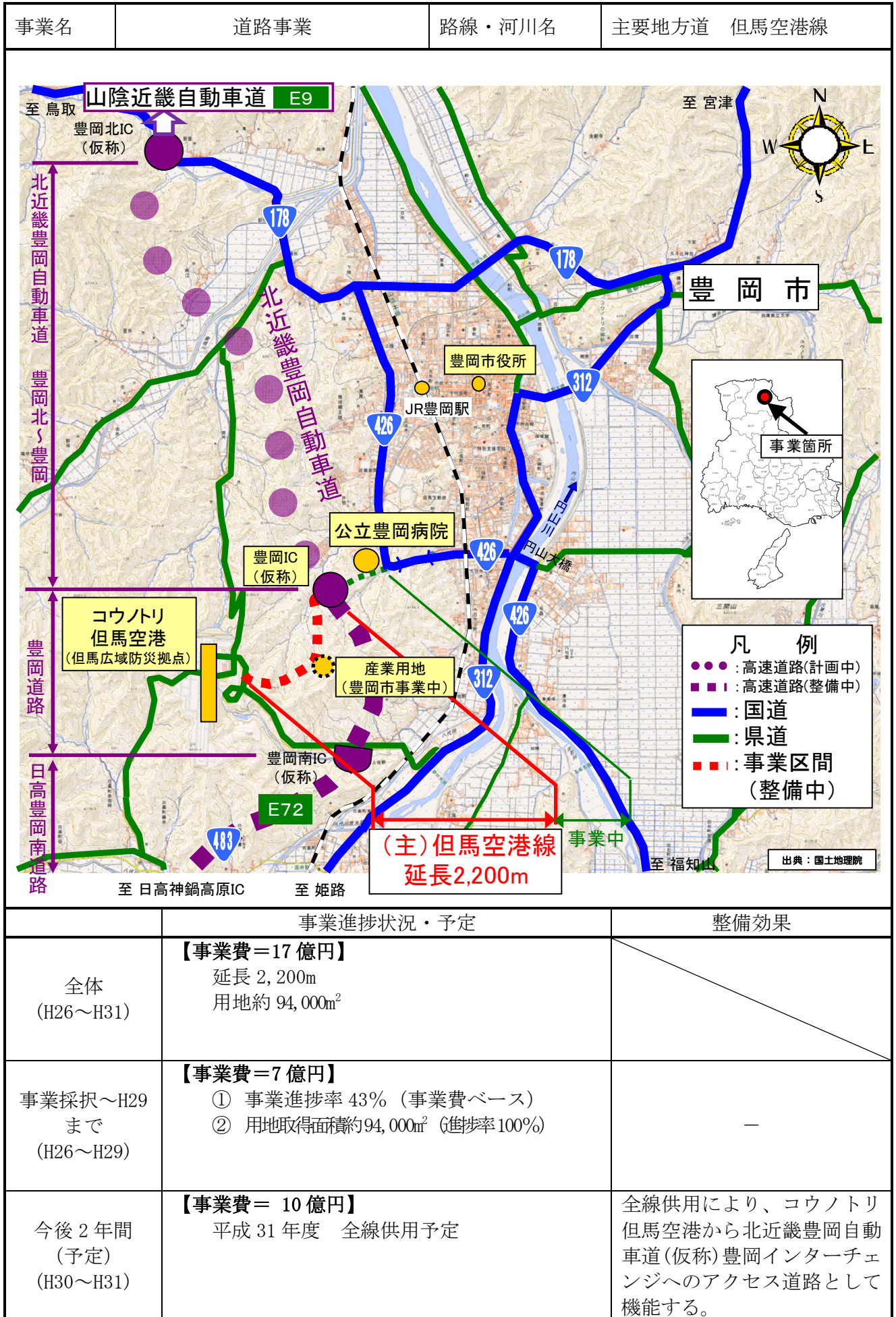


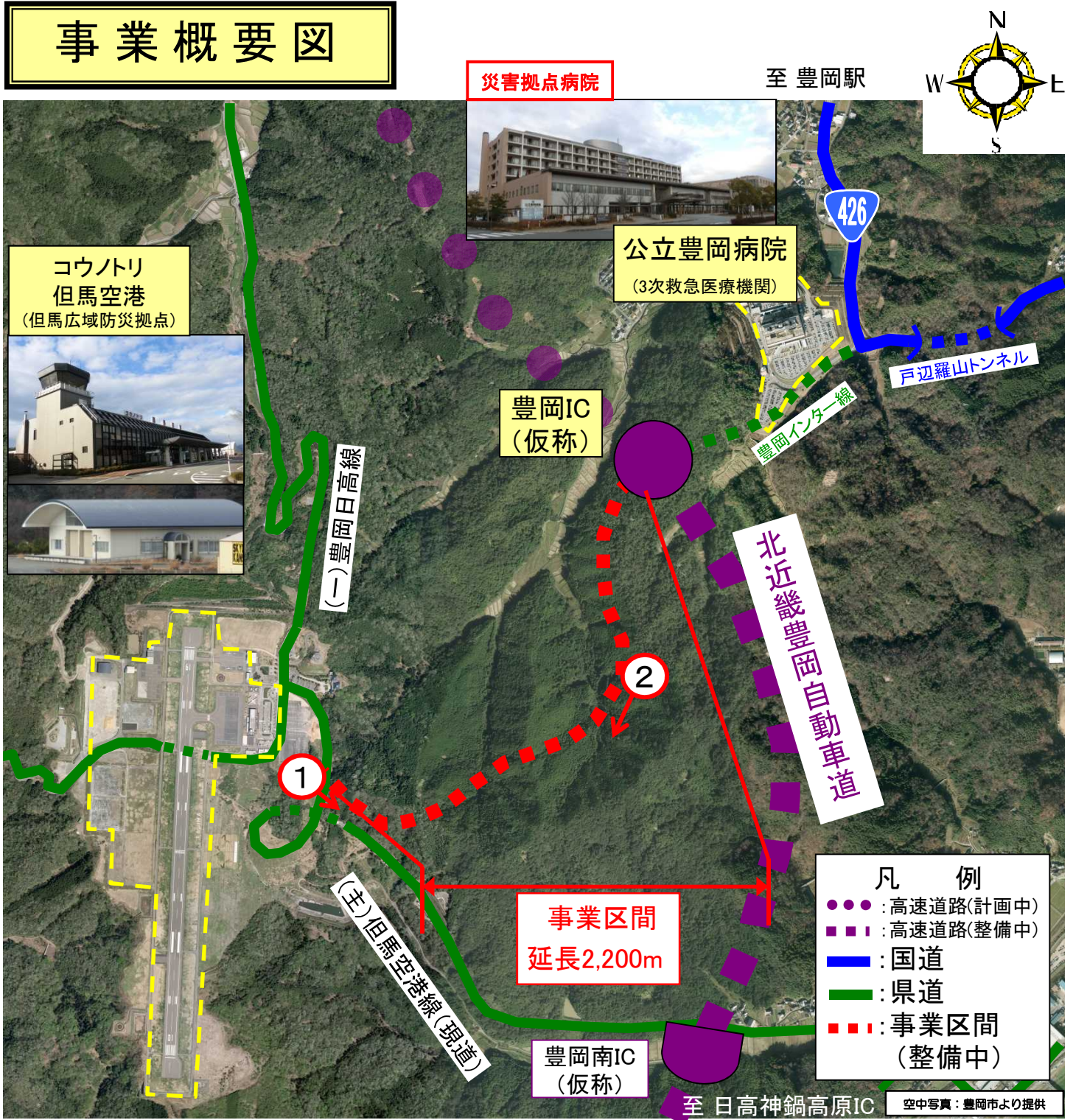
投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 上田 浩嗣 (県道班長 長央 貴晴)	内線	4362 (4376)	
事業種目	道 路	新規評価年度	平成 26 年度	今回評価	前回評価	
事業名	道路事業 主要地方道 たじまこうこう 但馬空港線	事業採択年度	平成 26 年度	総事業費	17 億円	7.2 億円
		着工年度	平成 26 年度	内用地補償費	0.3 億円	0.5 億円
				完成予定年度	平成 31 年度	平成 30 年度
事業区間	とよおかしとべら いわい 豊岡市戸牧～岩井			進捗率 (内用補進捗率)	43% (100%)	—
				残事業費	9.5 億円	一億円
事業の目的			事業内容			
①但馬空港の利用促進 本路線は、コウトリ但馬空港から北近畿豊岡自動車道(仮称)豊岡インターチェンジへのアクセス道路として機能する。			【延長】 2,200m			
②防災機能強化 緊急輸送道路である北近畿豊岡自動車道と一体となり、広域防災拠点であるコウトリ但馬空港へのアクセス向上を図る。			【構造規格】 第3種第4級			
			【計画幅員】 2車線 車道 5.5m〔全幅 7.0m〕			
			【計画交通量】 1,000台/日〔H42予測〕			
			【費用負担】 国55% 県45%			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	北近畿豊岡自動車道の整備に合わせ、コウトリ但馬空港からインターチェンジへのアクセス道路の整備が必要。 【北近畿豊岡自動車道の事業の動き】 豊岡道路（豊岡南 IC～豊岡 IC） 平成 27 年 6 月に都市計画決定 平成 28 年 4 月に事業化 日高豊岡南道路（日高神鍋高原 IC～豊岡南 IC）：整備中 八鹿日高道路（八鹿氷ノ山 IC～日高神鍋高原 IC）：平成 29 年 3 月に供用					
	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 ①当初計画は、国が北近畿豊岡自動車道の残土を搬入し、盛土区間の一部を施工する計画であったが、地元調整の結果、残土運搬のダンプ台数が大きく制限され、残土搬入量が大きく減少し、国施工量も縮減した。この縮減した工事を県が施工することとなり、当該事業が増工となった。 ②用地補償の交渉に時間を要したため、供用を平成 31 年度に変更する。					
進捗状況	①進捗率は事業費ベースで 43%、用地取得率は 100%。 ②平成 31 年度完成に向け、引き続き工事推進。					
評価視点 審査会意見及び対応方針	評価結果の説明					
	【審査会意見】		【対応方針】			
(1) 必要性	—					
(2) 有効性 ・ 効率性 (執行環境状況)	①北近畿豊岡自動車道の(仮称)豊岡インターチェンジとコウトリ但馬空港を結ぶアクセスルートとして、北近畿豊岡自動車道とあわせて整備する必要がある。また、北近畿豊岡自動車道は、山陰近畿自動車道(未事業化)と接続し、広域ネットワークを形成することから、府県境を越えたコウトリ但馬空港利用圏域の拡大の観点から、(仮称)豊岡インターチェンジとコウトリ但馬空港を接続する必要性が高い。 ②本路線は、広域防災拠点であるコウトリ但馬空港と、緊急輸送道路の機能を担う北近畿豊岡自動車道を結ぶとともに、同時改良予定の豊岡インター線を経由し、公立豊岡病院（災害拠点病院・3次救急医療機関）に直結することにより、防災力の強化を図る必要がある。					
(3) 環境適合性	①費用便益比 B/C=1.5(全体) (前回評価時点 B/C=3.6)、B/C=2.7(残事業) ②(仮称)豊岡インターチェンジ及び(一)豊岡インター線の供用に合わせた本事業の整備により、救急医療体制の充実、観光振興、企業誘致、空港利用促進等において相乗効果が期待できる。					
(4) 優先性	切土法面については、在来種等による植生の復元を図り、周辺環境の保全に配慮する。					
	①豊岡市街地からコウトリ但馬空港への主要アクセスルートとして、早期に整備する必要がある。 ②当該路線は北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路の(仮称)豊岡南インターチェンジ供用時に発生する、豊岡市街地までの交通集中を分散する機能を有することから、(仮称)豊岡南インターチェンジ供用までの完成が求められる。 ③本路線沿いには豊岡市が産業用地を整備しており、早期に整備する必要がある。					
再評価の結果	継続	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、北近畿豊岡自動車道の整備に合わせ、継続して事業を実施する必要がある			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第1回〕）



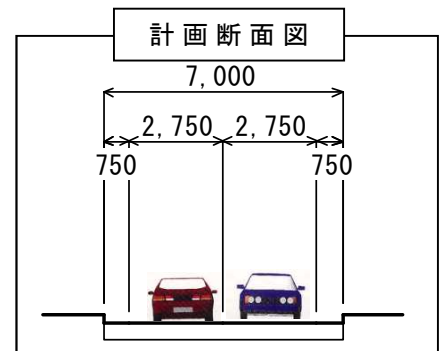
# 事業概要図



①施工状況(但馬空港側)



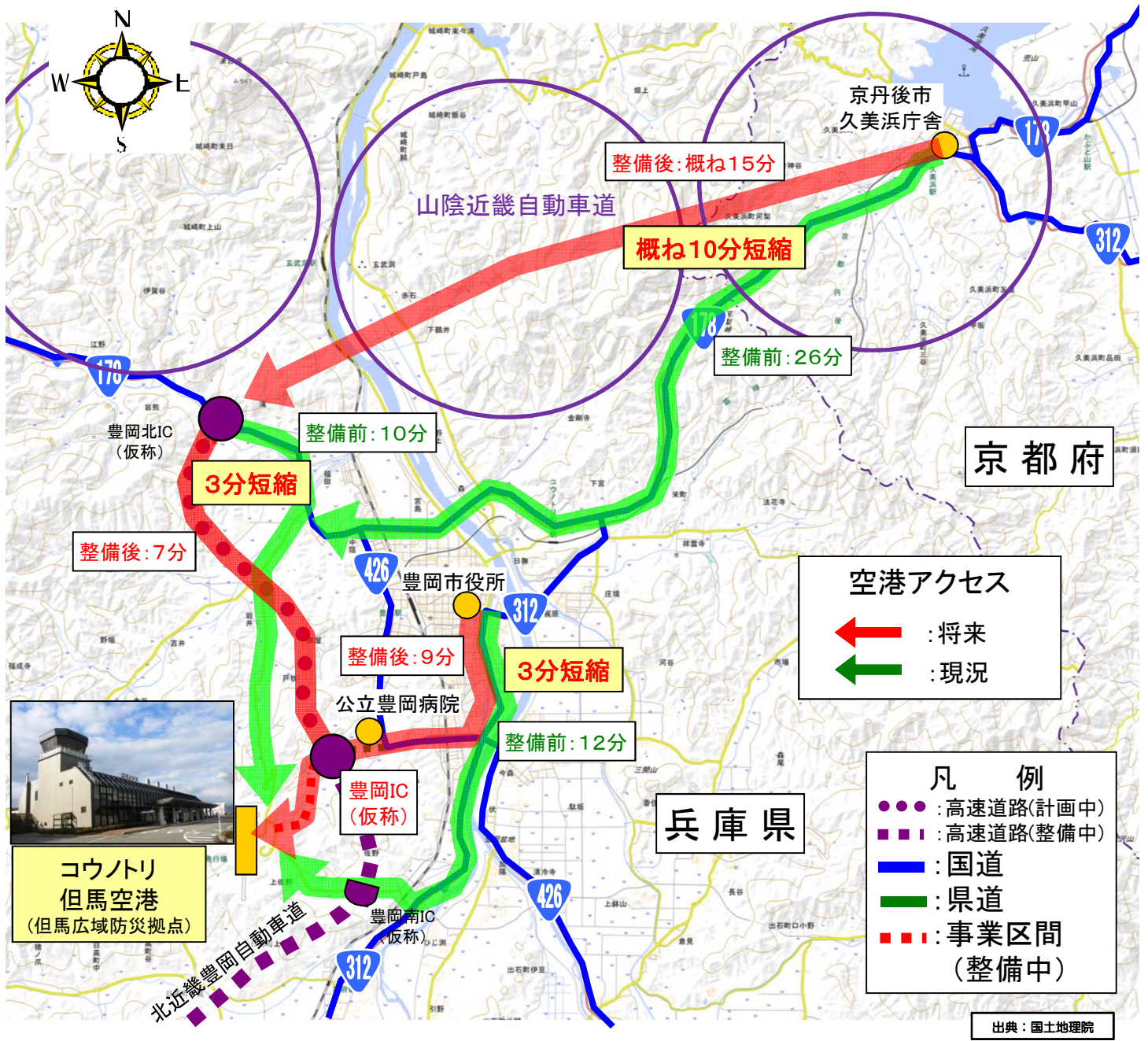
②施工状況(国道426号側)



# 但馬空港の利用促進

■豊岡市街地はもとより、北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道と一体となり、但馬北部や久美浜方面からのアクセス性が向上し、利用が促進。

久美浜からのアクセス: **概ね10分短縮**  
 但馬北部からのアクセス: **約3分短縮**  
 豊岡市街地からのアクセス: **約3分短縮**



# 防災機能の強化

■ コウノトリ但馬空港(但馬広域防災拠点)、北近畿豊岡自動車道、公立豊岡病院(災害拠点病院・3次救急医療機関)、豊岡市街地が相互に直結し、防災機能が向上



## 1. スケジュール

工 種	年 度					
	H26	H27	H28	H29	H30	H31
調査・設計	■					
用地補償	■		■			
道路改良		■				

	当初計画
	実施・計画

## 2. 事業効果について

### (1) 費用対効果

#### ① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

#### ② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用) (百万円)			B/C	
		便益額(百万円)			総費用	事業費	維持管理費		
道路	道路改築事業	全体事業費	① 走行時間短縮便益	1,998	計画交通量 1,000 台/日 (H42)	1,571	1,519	52	1.5
			② 走行経費減少便益	288					
			③ 交通事故減少便益	127					
			計	2,413					
	但馬空港線	残事業費	① 走行時間短縮便益	1,998	計画交通量 1,000 台/日 (H42)	882	830	52	2.7
			② 走行経費減少便益	288					
			③ 交通事故減少便益	127					
			計	2,413					

### (2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① コウノトリ但馬空港（但馬広域防災拠点）と公立豊岡病院（災害拠点病院）、北近畿豊岡自動車道を結ぶことによる防災機能の強化
- ② コウノトリ但馬空港へのアクセス機能向上によるコウノトリ但馬空港の利用促進
- ③ 豊岡市が事業中である産業用地へのアクセス機能の確保

## 道路街路事業の効果

対象事業：道路事業 但馬空港線

### (1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

### (2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	○ 但馬空港(広域防災拠点)と公立豊岡病院(災害拠点病院)、北近畿豊岡自動車道を結ぶことによる防災機能の強化	
		○ 但馬空港(広域防災拠点)と公立豊岡病院(災害拠点病院)、北近畿豊岡自動車道を結ぶことによる防災機能の強化	
		—	
	平時	○ 救急医療体制の支援	○ 公立豊岡病院(第3次救急医療機関)へのアクセス機能の向上
		交通安全対策	—
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 豊岡中心市街地と但馬空港のアクセス機能の向上	
	中心市街地の活性化	○ 豊岡中心市街地と但馬空港のアクセス機能の向上	
	地域産業の活性化	— 但馬空港へのアクセス機能向上による地域産業の活性化 (但馬空港利用者の約6割がビジネス利用) 豊岡市が整備する産業用地へのアクセス道路	
	観光支援	○ 但馬空港へのアクセス機能向上による観光振興 (但馬空港利用者の約2割が観光利用)	
	地域プロジェクト等の支援	○ 北近畿豊岡自動車道(豊岡道路)の供用 豊岡市が整備する産業用地へのアクセス道路	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節点の機能の向上	○ 但馬空港へのアクセス機能向上による但馬空港の利用促進	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	—	